

□放射線の影響は

被曝すると放射線は、どのようなメカニズムで人体に影響を与えるのでしょうか。簡単にいえば、放射線は物質を通り抜ける際、その物質の結合を原子レベルで破壊してしまいます。対象が人体であれば、細胞や遺伝子を傷つけることとなります。一度に大量の放射線を浴びたり、継続的に許容量を超えて被曝した場合、細胞は傷ついたり死滅したり、あるいは不完全なまま複製を繰り返して、後々、癌を引き起こす原因にもなります。放射線は間違いなく危険なものです。

□鶴ヶ島市の場合

鶴ヶ島市内では、小学校（地上50cm）中学校のグラウンド（地上100cm）、保育所の園庭・砂場（地上50cm）、公園の放射線量の測定を坂戸、鶴ヶ島水道企業団の協力で行いました。

今回までの大気中の放射線量の測定結果は、 $0.063 \sim 0.090 \mu\text{Sv}/\text{h}$ （マイクロシーベルト/時間）。文部科学省の「福島県内の学校等の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方について」（平成23年4月19日）で定める空間線量率 $3.8 \mu\text{Sv}/\text{h}$ を下回っています。小中学校のプール水については、新しく張った水は、放射性ヨウ素もセシウムも不検出との

放射線の話

3月11日、東日本大震災にともない発生した福島第一原子力発電所の事故により、今なお、放射性物質が放出し続けています。被曝の危険にさらされるだけでなく、日本の農林水産業を始め経済活動は大きなダメージを受けました。

ことです。（6/17採水）

また、坂戸、鶴ヶ島水道企業団の測定によると、鶴ヶ島市の水道水に含まれる放射性物質は、3月中は $20 \sim 30$ ベクレル/kg、4月以降は検出されていません。

鶴ヶ島市の水道水の80%を供給している吉見浄水場では、4月初めまで放射性ヨウ素が検出されて

いていましたが、4月半ば以降は放射性ヨウ素も放射性セシウムも不検出となっています。原発の事故以前はこれらの放射性物質は検出されていなかったとのことです。

□継続的な測定が必須

鶴ヶ島市では、文部科学省が暫定的に示した基準値と比較しています。しかし、この基準値は国際放射線防護委員会によれば

緊急時被曝状況のめやすで、一般人の被曝は年間 1 mSv （ミリシーベルト）としています。

ちなみに、 $0.090 \mu\text{Sv}/\text{h}$ を年間の被曝量に換算すると $788 \mu\text{Sv}$ （ 0.788 mSv ）。

市ホームページによると、放射線量は測定する機器や場所、測定時の気象条件によって異なること。同一の機器による継続的な測定により異

常に気づくことができます。

※放射線量測定器は6月議会で採択された補正予算で購入します。

- $\mu\text{Sv}/\text{h}$ （マイクロシーベルト/時間）
- 1時間当たり人が影響を受ける放射線の強さ。ベクレル/kg
- 放射性物質が放射線を出す能力を表す放射能の単位。

いんぷおめーしょん 茶タイム☆

日時 8/11（木）10時30分～12時
場所 くらぶメゾン鶴ヶ島
（鶴ヶ島市富士見2-12-15）

- ・6月議会報告
- ・9月議会に向けて、他

